



TITLE:

京都大学若手人材海外派遣事業ジョン万プログラム(職員) 平成27年度図書系職員海外調査研修

AUTHOR(S):

原竹, 留美; 西川, 真樹子

CITATION:

原竹, 留美 ...[et al]. 京都大学若手人材海外派遣事業ジョン万プログラム(職員) 平成27年度図書系職員海外調査研修. 2016

ISSUE DATE:

2016-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209957>

RIGHT:

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム(職員派遣)
平成27年度図書系職員海外研修報告書

研修者	氏名	原竹 留美
	氏名	西川 真樹子
研修先等	渡航先国名	オランダ
	研修先機関名	ライデン大学他
	研修期間	2015 年 9 月 14 日～2015 年 9 月 21 日
具体的な 研修内容	別紙のとおり	
本学の国際化に対する 研修成果の活用方法・ フィードバック	別紙のとおり	

※スペースが足りない場合は、適宜枠幅を広げてください。

別紙

京都大学若手人材海外派遣事業ジョン万プログラム（職員派遣）
平成 27 年度図書系職員海外調査研修報告書
欧州における京都大学学術情報へのアクセスニーズに関する調査

所属 附属図書館 情報サービス課 相互利用掛
職名 掛長
氏名 原竹 留美

所属 北部構内事務部 教務・図書課 共通図書掛
職名 主任
氏名 西川 真樹子

I. 概要

今回の研修では、日本資料専門家欧州協会（European Association of Japanese Resource Specialists：以下 EAJRS）第 26 回年次大会に参加し、日本資料へのアクセスに関する本学および日本の状況についてプレゼンテーションを行い、参加者と各国の状況について情報交換を行った。また、会場となったライデン大学の中央図書館と東アジア図書館などを訪問し調査した。

EAJRS は欧州における日本分野の資料（図書館資料・情報資源）に関心をもつ専門家（司書、研究者等）によるグループであり、毎年 9 月頃に年次大会が開催されている。今年は欧州・日本を中心に北米なども含め 16 か国から 125 名が参加し、近年では最大規模の大会となった。ⁱⁱ

EAJRS2015 に参加した目的は以下の 2 つである。

1. 欧州における日本資料の専門家が一堂に会するこのカンファレンスで、ライブラリアンや在外研究者の日本資料へのアクセス状況についての最新情報を入手する。

図書館サービスの一つである図書館間相互貸借/ドキュメントデリバリー（InterLibrary Loan / Document Delivery：以下、ILL/DD）ⁱⁱⁱでは、海外の学術機関から文献複写や図書を取り寄せる場合、入手先は GIF（Global ILL Framework）^{iv}参加館（北米・韓国）、英国図書館 BLDSC 文献サービス^vやドイツ SUBITO 文献デリバリーサービス^{vi}が主であるが、その他の機関の場合は依頼方法や料金の支払方法が様々なために文献入手迄に時間を要することがある。GIF の利点は依頼方法と料金決済方法の簡便さであるが、協力体制に欧州機関を加えることができれば国際 ILL/DD は格段に進歩する。欧州機関における国際 ILL/DD の現状や日本の図書館に対する要望を調査することによって、今後の GIF の展開

について考える。

2. 本学のオープンアクセス方針を PR し、欧州各国のオープンアクセスの状況について、図書館員・研究者と情報交換する。

本学図書館が提供している資料の認知度や利用状況・改善点について、情報交換できる絶好の機会である。本学図書館が所蔵する資料をデジタル化・ウェブ化・オープン化する際のヒントを得ることで、研究者が求めるアクセスしやすく・視認性の高いデータを作成することができる。本学図書館におけるデジタル・ヒューマニティーズを考える上で重要な調査である。

上記 2 つの目的をもって、プレゼンテーションと参加者へのアンケート調査を行った。アンケート調査では EAJRS2015 の参加者に調査票を直接またはインターネットを通じて配布し、4 日間で約 20 名近くの回答を得た。回答の詳細は別紙グラフに詳しい。以下、各目的に分けて、それぞれのプレゼンテーションの内容とアンケート調査の結果概要について報告する。

II. 日本における国際 ILL/DD の現状および今後の展開について

A) GIF プロジェクトの概要

日本と海外との大学図書館等における ILL/DD は、GIF プロジェクト^{vii}として、ISO ILL プロトコル^{viii}に基づく ILL システム間リンクを国立情報学研究所（以下、NII）の NACSIS-ILL システム^{ix}と、北米 OCLC^x（2002 年 4 月～）、韓国 KERIS^{xi}（2007 年 4 月～）との間で運用開始したことにより大きく進歩したといえる。現在の参加館数は次のとおりである。（2016 年 3 月現在）

- ・日米間：日本 168 館（うち 94 館は貸借も可）、北米 113 館（うち 86 館は貸借も可）
- ・日韓間：日本 119 館、韓国 323 館（日韓間では複写のみ）

現在、日本の GIF プロジェクトでは北米 OCLC と今後はシステム間リンクではなく、専門家（エージェント）を置くことにより、双方にとってより効率のよい ILL/DD を目指すことを検討している。これは現状のいくつかの問題点の解消が目的である。

B) 日本 GIF 参加館の国際 ILL/DD に関する意識調査

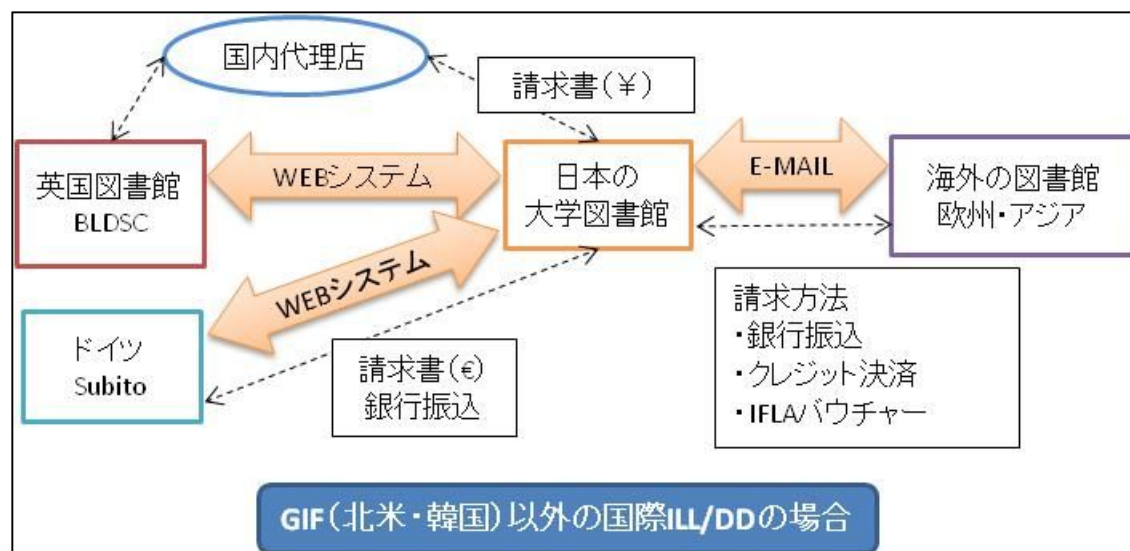
日本の GIF プロジェクトチームでは、2013 年に日本 GIF 参加館に対して国際 ILL/DD に関する意識調査を実施した。GIF の利点として、1) 国内 ILL/DD と同じシステムを利用して依頼／受付ができる（34%）、2) 支払方法が適している（29%）、3) 日本語でのサポートがある（27%）の 3 点が回答の上位を占めた。また、GIF で改善が望ましい点は、1) 依頼業務についてクレーム処理ができればよい（33%）、2) 依頼業務について優先順

位をつけて一度に複数館に依頼できればよい（24%）など、国内 ILL/DD 運用システムと
の使用方法の差異によることが回答の 70%以上を占めた。（複数回答可）

GIF 以外への依頼先については英国図書館（BLDSC）が最も多く、次いで資料所蔵機関
となっている。英国図書館（BLDSC）への依頼については、支払方法が国内代理店による
円での請求であることや、日本語でのサポートがあることが選択理由として挙げられてい
る。

その他の自由記述回答として、GIF 連携対象を欧州圏やアジア圏まで拡大してほしい、
所蔵館と直接やり取りをする煩雑さ、指定される支払方法が大学の会計上処理できない場
合がある等、日々の苦勞が窺えるものであった。

本学附属図書館における国際 ILL/DD 業務では、受付・依頼ともに年間各 200 件程度処
理している。その依頼業務のうち 25%程度は所蔵館へ直接 E メールで問い合わせるケース
であり、提供までに時間を要することが多い。



C) EAJRS2015 でのプレゼンテーションとアンケート調査結果概要

附属図書館では京都大学唯一の GIF 参加館として国際 ILL/DD 業務を行っている。また、筆者（原竹）は GIF プロジェクトチームの実務担当の一人として、チームが対応するシステム上のトラブルや参加館の相談事例を見てきた。プレゼンテーションでは、それらの経験を踏まえて、日本の GIF プロジェクトの概略、統計、日本 GIF 参加館アンケート、現在、検討中であるシステム間リンクの代替となる専門家（エージェント）方式について述べさせていただいた（別紙発表資料参照）。

欧州図書館関係者からは、次のような意見が寄せられた。

EAJRS2015 での発表(原竹)



・日本資料を ILL/DD で入手する時、欧州機関に所蔵がなければ国立国会図書館（以下、NDL）^{xii}から入手しているが、NDL に所蔵がない場合は入手困難であり、もし GIF に欧州機関も参加できれば日本の大学図書館から入手することが可能となる。

・GIF への依頼は CiNii Books を検索して GIF 参加館の所蔵を調べるというが、NDL 所蔵も一括検索できた方がいい。NDL と大学図書館との連携が望ましい。

・NDL への料金支払方法が銀行振込、クレジットカード決済等であり、必ずしも満足していない。国際 ILL/DD の料金決済には事務手続きが簡便な国際図書館連盟（IFLA：International Federation of Library Association and Institutions）^{xiii}発行の IFLA バウチャー^{xiv}の利用が望ましい。

アンケート調査では「海外の図書館への依頼」「海外の図書館へ提供」について 10 個の質問を行った（別紙グラフ B,C 部分参照）。日本の所蔵資料を検索するツールとしては、NDL OPAC^{xv}、CiNii Book^{xvi}、OCLC の順で多く利用されている。また、海外から取り寄せることが難しい資料として「貴重書・古い資料の複写」「マイクロ資料」との回答が多かった。NDL に所蔵されていない日本資料を探す、入手することの困難さについて幾人かのライブラリアンから伺った。また、日本の大学図書館が国際 ILL/DD に対応していることや IFLA バウチャーでの支払いを受付けている大学図書館もあることについては有益な情報と受け取られた。

海外の図書館への提供については半数以上が提供していると回答しており、受付方法としては OCLC システム、E メール、郵便の順で多い。料金受付方法として、IFLA バウチャー、OCLC IFM（ILL Fee Management）システム（GIF も含まれる OCLC の料金決済システム）、銀行振込の順である。主に日本語資料を取り扱うライブラリアンは、日本からの ILL/DD 依頼について担当しているわけではないが、日本語でのコミュニケーションが必要な場合は ILL/DD 担当のサポートをするという。

アンケートを含めた参加者との情報交換では、日本の大学図書館における国際 ILL/DD に関する情報発信が不足していること、NDL のバックアップとしての大学図書館の存在は不可欠であることが印象に残った。

III. 日本資料アクセスにおけるオープンアクセスについて

A) EAJRS2015 におけるオープンアクセス

EAJRS2015 では、ライデン大学図書館での特別コレクション紹介も含めて 35 本の発表があった。基調講演が、三重大学の三根慎二先生による「日本におけるオープンアクセスの現状」であったことからわかるように、今年の EAJRS ではデジタル・ヒューマニティーズにおけるオープンアクセスに熱い関心が寄せられていたように思う。研究者自身の成果発表以外に、コレクションのデジタル化やそれを通じての他機関及び他データベースとの連携方法、デジタル化資料の提供方法などについての発表が多く見られた。たとえば琉球

大学附属図書館とハワイ大学マノア校図書館との「阪巻・宝玲文庫^{xvii}」のデジタル化プロジェクトや国/官民/組織/個人のコラボレーションで様々な記録を収集している東日本大震災デジタルアーカイブ(JDA)^{xviii}などである。

B) EAJRS2015 でのプレゼンテーションとアンケート調査結果概要

プレゼンテーションでは、2015 年 4 月 28 日に京都大学が採択した「オープンアクセス方針」にいたる、京都大学図書館での 3 つの契機について説明を行った。1 つ目の契機とは電子図書館の公開で、日本の他大学に先駆けて展示と連動する形で貴重資料画像を Web 公開したこと、2 つ目の契機は学位規則の改正によって、2013 年度以降の博士論文のインターネットでの公表が原則義務化となる前から、本学工学研究科の博士論文はリポジトリでの公開が進んでいたこと、3 つ目の契機は日本で大学として初めて「オープンアクセス方針」を策定したことである。その上でオープンアクセスが、研究者・図書館・大学・社会について及ぼす影響について指摘し、図書館の果たすべき役割や学内の MLA 連携^{xix}について述べた。発表後、フロアからはオープンアクセスの具体的な実施や、本学機関リポジトリの豊富なコンテンツ、KURENAI^{xx}サイト内の「京都大学発行電子ジャーナル」の今後について質問が寄せられた。

アンケートでは「海外から利用するデジタル資料」「オープンアクセス」について 16 個の質問を行った(別紙グラフ D,E 部分参照)。海外から利用するデジタル資料については、所属機関のデジタルアーカイブとともに他機関の専門分野のデジタルアーカイブもよく利用されることがわかった。その理由として、習慣的に利用していること、他にはない機能がそのサイトにあること(例えば、ローマ字での表示や統合検索機能など)、コンテンツが豊富なことがあげられた。構成員以外の専門分野の研究者に使われるアーカイブとなるには、コンテンツの拡充に加えて、リッチな検索機能やメタデータも求められることがわかる。それに加えて、オープンデータについても見逃せない。回答者の何人かは、デジタルアーカイブを利用する理由の 1 つとして、オープンデータの提供や著作権についての表記の明確さをあげた。これらはデータの二次利用を促すために重要なことであると考えられる。

また、オープンアクセス自体については好意的な意見が寄せられ、自身の論文をオープンアクセスにしたことのある研究者もいた。オープンアクセス推進の理由としては、義務的な理由もあったが、オープンアクセスにした方が論文が注目されやすい、公的資金を使った研究なので、オープンにして当然である、といった選択肢が支持された。そして、本学のオープンアクセス方針については、「他の大学が追随すること」「他大学のモデルになる機関で openaccess が進んだ」と、本学が日本でのオープンアクセスのモデル機関となることを望む声が聞かれた。

EAJRS2015 での発表(西川)



しかしながら、オランダはじめ欧州ではオープンアクセスが進んでいるが^{xxi}、回答者自身の所属機関のオープンアクセスポリシーの策定は進んでいるとは言い難いことがアンケート結果から伺える。オープンアクセス普及のコツとして、教員を巻き込むイベントをする、機関リポジトリでのダウンロード回数を研究者に定期的に知らせる、などが挙げられた。オープンアクセス自体には賛成であるものの、大学や研究機関の最大のステークホルダーである教員・研究者にオープンアクセスへの理解を得られるようにするには、困難が伴うことを感じさせられた。

ライデン大学東アジア図書館

C) ランチミーティング

EAJRS2015 の 3 日目、ライデン大学図書館長が開いたランチミーティングに参加した。ライデン大学、シーボルト博物館、英国図書館、オックスフォード大学、イエール大学、カルフォルニア大学などの日本研究者・学芸員・ライブラリアンが集まるなか、自国あるいは自機関のデジタルアーカイブについてディスカッションを行った。インターフェース、コンテンツ、メタデータ、アドボカシーと様々な議題が出るなかで、ライデン大学図書館長の Kurt De Belder 氏が繰り返し強調したのは「データ」と「教育」であった。それらは e-learning や受付窓口/ワークショップ/授業などでのデジタルアーカイブを使うための支援と、デジタルアーカイブを使われるものにするためのデータ・メタデータ・機能を意味し、2 つは両輪でどちらも欠けてはならないということであった。



D) ライデン大学中央図書館と東アジア図書館

ライデン大学中央図書館アジアコレクション

EAJRS2015 期間中には、ライデン大学内の中央図書館および東アジア図書館の見学を行った。東アジア図書館は近々現在の中央図書館を増築して、中央図書館のアジアコレクション部門と統合することが予定されている^{xxii}。中央図書館のアジアコレクション部門では江戸時代の日蘭交流にまで遡る貴重な資料を所蔵・収集、積極的に電子化を行っている。一方、東アジア図書館はライデン大学の人文学部地域研究分野の中国研究・日本研究・韓国研究の学生をサポートする図書館で、開架には関連分野の図書や雑誌が並ぶ。参考図書はいくぶん古い印象を受けたが、最近は電子ブックでの参考図書が充実しているので、問題にならないとのことである。書架のいたるところに QR コードがあり、手持ちのスマートフォン端末等から、在架図書の関連図書や電子リソース、コースブックにアクセスできるように工夫されていた。東アジア図書館自体は 1



フロアの書架と閲覧スペースで構成されているが、その図書館のある建物の中庭に広いアクティブラーニングができるスペースがあり、教科書やノートを広げてディスカッションする学生で賑わっていた。東アジア図書館の移動・拡充で、学習・研究のサポートと貴重資料の提供の 2 つに分かれていた図書館が統合され、どのように変わっていくのか今後に注目したい。

IV. まとめ

以上、EAJRS2015 への参加とライデン大学での図書館訪問調査を中心に概観した。オープンアクセス、オープンデータ、オープンサイエンスとオープン化の波が次々と押し寄せるなかで、言語の問題や紀要・学会誌中心のオープンアクセス状況から、人文学分野はその波に乗り遅れていると言われてきた^{xxiii}。しかし、近年コンピュータサイエンスとの融合で、デジタル・ヒューマニティーズが勃興し、全く新しいデジタルアーカイブの見せ方が可能になってきた。研究成果である論文のオープンアクセスを進め、オープンアクセスの順守状況をチェックできるシステムを構築する一方で、著作権を明記し、研究成果の元になるオープンデータを利用しやすいかたちで提供し、ユーザインターフェースを整える。これらは人文学分野の特徴に柔軟に対応しつつ、分野を超えて目指すべきオープン化の段階の一部である。今回 EAJRS2015 へ参加し、欧州の研究者・ライブラリアンと情報交換することで、京都大学がこのオープン化の流れの途上にいることが確認でき、本学に寄せられる大きな期待も感じられた。

デジタルではない、今なお必要とされる紙資料を提供する ILL/DD においては、日本の GIF プロジェクトが OCLC を利用した専門家 (エージェント) 方式を実現できれば、OCLC に加盟している世界の図書館と容易に繋がることことができる。依頼、受付、提供、料金決済という流れを簡便にすることによって、資料提供のスピードは格段に上がることが期待される。GIF プロジェクトは、北米とは北米研究図書館資料調整協議会 (NCC) ^{xxiv}との連携によって成立しているが、よりグローバルに展開するには他のエリア、例えば EAJRS のような日本資料を取り扱う団体との情報交換は欠かせないと思われる。以上、紙資料であれデジタルであれ、媒体や手段は異なっても本学の図書館が提供する資料・データ・サービスによって、本学が世界で今以上にプレゼンスを示すことのできる可能性について知見を広めた研修となった。

ⁱ EAJRS WEB サイト <http://ejjrs.net/>

ⁱⁱ E1734・第 26 回日本資料専門家欧州協会 (EAJRS) 年次大会<報告> (原竹) [カレントアウェアネス-E No.292 2015.11.12] <http://current.ndl.go.jp/e1734>

ⁱⁱⁱ InterLibrary Loan / Document Delivery : 図書館間相互貸借/ドキュメントデリバリー
の略。自分の図書館にない資料の複写物や図書そのものを他の図書館から取寄せて利用者

へ提供する図書館サービス。

iv **Global ILL Framework** の略。大学図書館が国際協力のもと、国際 ILL/DD を実現するための仕組み。

Global ILL Framework <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/gif/index.html>

v **The British Library Document Supply Centre** の略。英国図書館の一部門であり、世界各地からの複写・貸借依頼に対応している。日本では二つの代理店が利用登録や料金請求業務を行っている。

vi ドイツ、オーストリア、スイスの研究図書館による文献デリバリーサービス。料金支払方法は銀行振込、クレジット決済等の選択が可能である。

vii 日本の国立大学図書館協会（学術情報委員会）が国立情報学研究所、国公立大学図書館協会、北米日本研究資料調整協議会（NCC）および韓国教育学術情報院（KERIS）等と協力して進めている国際 ILL/DD のプロジェクト。

viii ILL 処理に関する国際規格であり、これにより二つの ILL システム（例えば日本の NACSIS-ILL と米国の OCLC）をリンクして ILL/DD 業務が可能となる。

ix 国立情報学研究所が管理・運営している図書館間の ILL/DD メッセージ交換（依頼・受付等）および料金決済システム。

x 米国の NPO で、世界 170 カ国/地域の 72000 以上の機関が参加する図書館サービス機関。

xi **Korea Education and Research Information Service** の略。韓国教育学術情報院。政府機関の一つで、教育情報・学術情報等のシステム構築・運営を行っている。

xii **National Diet Library** の略。日本の国立国会図書館。海外への ILL/DD サービスも行っている。

xiii **The International Federation of Library Associations and Institutions** の略。図書館の国際組織。

xiv 国際 ILL/DD の料金支払いを簡単にするために、IFLA が発行している現金の代替となるバウチャー（プラスチック製のカード）。国内では日本図書館協会で購入が可能。

xv 国立国会図書館の蔵書検索システム。

xvi 全国の大学図書館等が所蔵する図書や雑誌等の情報が検索できるシステムで国立情報学研究所が管理・運営をしている。

xvii 琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ
<http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/d-archive/>

xviii 東日本大震災デジタルアーカイブ <http://www.jdarchive.org/ja/home>

xix 博物館(Museum)・図書館(Library)・文書館(Archives)の間で行われる種々の連携・協

力活動のこと。

xx 京都大学学術情報リポジトリ。オープンアクセスを実現するプラットフォームとして、京都大学の研究・教育成果(学術雑誌掲載論文、学位論文、紀要論文など)をインターネット上で公開している。

xxi オープンアクセスに関して、オランダは EU 諸国のなかで「優等生」といえる。オランダの全ての研究大学は 1 つ以上の機関リポジトリを所持し、それらを含むリポジトリネットワークのポータルサイトとして NARCIS がある。そして、オランダ国内の 14 研究大学のうち 9 大学では博士論文の機関リポジトリでの公開を義務化し、そのカバー率は 84% にものぼる。また、その 14 研究大学によって組織されるオランダ大学協会(VSNU)と学術出版社との交渉も盛んである。2014 年 11 月には Springer 社と、2015 年 12 月には Elsevier 社と、ジャーナルについての購読契約と公的助成を受けた研究成果のオープンアクセスに向けての合意に成功している。DOAJ ではオランダ発の 35 誌をオープンアクセス・ジャーナルとしてリストに挙げている。

OA in the Netherlands [OpenAIRE] <https://www.openaire.eu/oa-netherlands>

オランダ大学協会と Elsevier 社、オープンアクセスと購読契約についての交渉が合意

Posted 2015/12/11 [カレントアウェアネス・ポータル] <http://current.ndl.go.jp/node/30197>

オランダ大学協会と Springer 社、オープンアクセスに関して合意

Posted 2014/11/25 [カレントアウェアネス・ポータル] <http://current.ndl.go.jp/node/27500>

xxii Leiden University Libraries: Asian Library <http://asianlibraryleiden.nl/>

xxiii Mine Shinji “The current status of open access to scholarship in Japan”

[EAJRS2015]

<http://www.slideshare.net/smimine/the-current-status-of-open-access-to-scholarship-in-japan>

xxiv North American Coordinating Council on Japanese Library Resources の略。北米研究図書館資料調整協議会。北米を中心に日本研究の情報・資料提供を支援する非営利組織。日本研究に関する多くの情報発信を WEB サイトで行っている。また、大学図書館等の日本コレクションに携わるライブラリアンの活動は GIF プロジェクトを始め、国際 ILL/DD において大きな役割を担っている。

<http://guides.nccjapan.org/homepage>

日本資料へのアクセスに関するアンケート調査

Access to Japanese Materials Questionnaire

2015 年 9 月 / Sep. 2015

原竹留美(HARATAKE RUMI)・西川真樹子(NISHIKAWA MAKIKO)

京都大学図書館機構 / Kyoto University Library Network

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

このアンケートは EAJRS2015 の期間中、下記について調査するために行います。

- ・ 海外からの資料入手について
- ・ 海外から利用するデジタル資料について
- ・ オープンアクセスについて

調査の結果につきましては、個人を特定されないようにし、後日この調査の目的の範囲内で公表することがあります。全体の調査結果のお知らせを希望される場合は、回答最後の連絡先欄にメールアドレスをご記入ください。

We are going to carry out a questionnaire survey for the following reasons during EAJRS2015.

- ・ *Access to materials abroad*
- ・ *Digital materials accessed abroad*
- ・ *Open Access*

Data gathered from the survey will be summarized and aggregated without any personally identifiable information. Please write down your email address at the end of this paper if you would like to receive the results of this survey.

質問と回答はここからです。回答は web でも受け付けています。

You can also answer this questionnaire on the web.

The questionnaire starts now.

<http://goo.gl/forms/pC07RVjgoM>



回答受付期間 : 2015 年 9 月 16 日 - 9 月 30 日

Period : 16th – 30 th Sep. 2015

A. 一般項目 / *About yourself*

1. お名前 (非公開・任意) / *Name (not disclosed, not required)*

2. 現在の居住国 / *Country of residence*

3. ご所属 (任意) / *Affiliation (not required)*

4. 職業 (例: 研究者・図書館員・学芸員など) / *Occupations (example: researcher / librarian / curator)*

5. 母国語 / *Native language*

6. 日本語習得レベルを教えてください。(複数選択可) / *Please tell us your Japanese level. (Select all that apply.)*

- ☐ 全くわからない・習得したことがない / *Don't speak the language*
- ☐ 日本語のネイティブスピーカーである / *native Japanese speaker*

[会話・議論] / *[Conversation & Discussion]*

- ☐ 単語が少しわかる / *A little*
- ☐ 日常会話ができる / *Normal everyday conversation*
- ☐ 議論ができる / *Business*

[読み・書き] / *[Reading and Writing skills]*

- ☐ かなを読む / 書くことができる / *Can read & write Kana*
- ☐ カタカナを読む・書くことができる / *Can read & write Katakana*
- ☐ 漢字を少し読む・書くことができる / *Can read & write Kanji a little*
- ☐ 漢字をおおむね読む・書くことができる / *Can read & write quite a lot*
- ☐ くずし字を読むことができる / *Can read Kuzushiji*

B. 海外の図書館への依頼について / *About your international Borrowing activity*

ここでは海外の図書館から資料や複写物を取り寄せることについてお聞きます。

This section will focus on your international borrowing activity, where you are requesting materials (returnable and nonreturnable) from foreign libraries.

1. 海外の図書館へ依頼（借用・複写）することがありますか？（「はい」を選択された場合は次の質問 B-2 にお答えください。） / *Do you borrow internationally? (If you select "YES", please answer the next Question B-2)*

- ☐ はい / Yes ☐ いいえ / No

2. 海外の図書館へ依頼するリクエストのタイプは？ / *What type of materials do you borrow from international libraries?*

- ☐ 借用 / *Returnables* ☐ 複写 / *Non-returnables* ☐ 両方 / *Both*

3. 海外の図書館が所蔵する資料を探すとき、どのような検索ツールを使いますか？（複数選択可） / *As a borrower, what tools do you use to locate international holdings? (Select all that apply.)*

- ☐ OCLC
☐ 国立国会図書館 OPAC / *National Diet Library (Japan) OPAC*
☐ CiNii Books
☐ 日本古典籍総合目録 / *Union Catalogue of Early Japanese Books*
☐ 京都大学 OPAC / *Kyoto University OPAC*
☐ その他 / *Other (_____)*

4. 海外の図書館から取り寄せるのが難しい資料は？（複数選択可） / *Which, if any, types of materials that are especially hard to obtain from international collections? (Select all that apply.)*

- ☐ Books
☐ Serials (*bound volumes/issues*)
☐ Copies of rare or older material
☐ Microforms
☐ Other (_____)

5. 海外、特に日本から資料を取り寄せることに満足していますか？ / *Are you satisfied with requesting materials from foreign libraries in particular, from Japan?*

- ☐ はい / Yes ☐ いいえ / No

6. あなたの図書館の海外 ILL サービスについてお書きください。 / *Is there anything else about your international interlibrary loan activity that you would like to tell us?*

C. 海外への貸出・複写提供について / *About your international Lending activity*

ここでは図書館員の方に海外の図書館へ資料や複写物を提供することについてお聞きます。図書館員以外の方はDにお進みください。

*This section will focus on your international lending activity, where you are supplying materials (returnable and nonreturnable) to foreign libraries. If you are a librarian, please answer the following questions. If you are a **NOT** librarian, please skip the section C and answer the section D.*

1. 海外の図書館へ提供（貸出・複写）していますか? / *Do you lend internationally?*

- ☐ はい / Yes ☐ いいえ / No

2. 海外の図書館からのILL リクエストに応じているタイプは? / *What type of requests will you supply to international libraries?*

- ☐ 借用 / *Returnables* ☐ 複写 / *Non-returnables* ☐ 両方 / *Both*

3 海外の図書館からの依頼は、どの方法で受け付けていますか? (複数選択可) / *How do you receive international lending requests? (Select all that apply.)*

- ☐ OCLC
☐ NACSIS-ILL system
☐ Local hosted web form
☐ E-mail
☐ Postal service (mail)
☐ Other (_____)

4. 海外の図書館からの支払いは、どの方法で受け付けていますか? (複数選択可) / *Which of the following methods do you accept as payment for lending materials to international libraries? (Select all that apply.)*

- ☐ IFLA Vouchers
☐ OCLC IFM
☐ ISO Messaging (GIF)
☐ Credit cards
☐ Bank transfer
☐ Other (_____)

D. 海外から利用するデジタル資料について / *Digital materials accessed abroad*

1. ご自身の所属機関のデジタル・アーカイブ(画像・音声・動画など)を利用したことがありますか? / *Have you ever used the digital materials available at your university?*

- ☐ よく利用する / *Very often*
- ☐ 利用したことがある / *Sometimes*
- ☐ 利用したことがない / *Never*
- ☐ 存在を知らない / *Don't know if it is available*

2. 普段利用するデジタル・アーカイブの Web サイト名を教えてください。 / *Please tell us the name of the website you frequently use.*

3. なぜ 2 のサイトをよく利用するのですか? / *If frequently used, why?*

(例えば / *for example*)

- 専門分野のアーカイブだから / *Because the website is on my subject.*
-という点が便利だから / *It is convenient to xxx.*
- オープンデータが提供されているから / *Because the website has an open date.*

4. データの二次利用について、困ったことがありますか? それはどのようなことでしたか? どのような解決法を希望しますか? (例えば「CC BY等のライセンス表示を提供してほしい」など) / *Please describe in the column below if you have trouble with secondary date and your approach to the solution. (For example; I display a "CC BY" license.)*

5. 「京都大学電子図書館貴重資料画像」サイトを利用したことがありますか? / *Have you ever used "Kyoto University Digital Library Rare Materials Exhibition"?*

<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/index.html>

- ☐ よく利用する / *Very often*
- ☐ 利用したことがある / *Sometimes*
- ☐ 利用したことがない / *Never*

☐ 存在を知らない / *Don't know if it is available*

6. このサイトについてどう思われますか? 良い点や改善すべきだと思う点を教えてください。 / *Please describe in the column below if you have any comments or opinions about KU Digital Library, including pros and cons.*

7. 日本資料を検索するときに、困っている点やコツがあれば教えてください。 / *Please tell us about your tips and disadvantage when you search for Japanese materials.*

E. オープンアクセスについて / *About Open Access*

1. オープンアクセスとは何かご存知ですか? / *Do you know "Open Access"?*

☐ 知っている / *Yes* ☐ 知らない / *No*

☐ 聞いたことがある / *I have heard of it.*

2. 研究者の方に質問です。今まで何らかの手段でご自身の研究成果・論文をオープンアクセスにしたことがありますか? (複数選択可) / *Question for researchers: Have you ever made your articles and research results open access? (Select all that apply.)*

☐ ない / *Never*

☐ オープンアクセス誌に論文を投稿した (有料・無料) / *I've submitted my paper to an open access journal for a fee/non-fee.*

☐ 所属機関のリポジトリや分野別のリポジトリで公開した / *I've published in the institutional repository of my university or the subject repository.*

☐ 自分の Web サイトなどで公開した / *I've published on my website.*

3. 研究者の方に質問です。今後、ご自身の研究成果・論文をオープンアクセスにしようと思いますか? / *Question for researchers. Will you make research results open access?*

☐ 思う / *Yes* ☐ 思わない / *No* ☐ わからない / *N/A*

4. 3の理由は? (複数選択可) / Why? (Select all that apply.)

- ☐ 公的資金を使った研究だから公開して当然である / Yes, because my research receives public funds. It is a good reason to make the result of my research open access.
- ☐ 所属機関がオープンアクセスを推奨・義務化しているから / Yes, because my university suggested or mandates open access.
- ☐ オープンアクセスにした方が論文が注目されやすいから / Yes, because more citations by peer researchers can be expected.
- ☐ 投稿する雑誌がオープンアクセス誌ならしても良い / Yes, if the journal accepting my article is an open access journal.
- ☐ オープンアクセスにかかる費用が高いのではない / No, because publishing an article is expensive.
- ☐ よくわからない・効果がわからないのではない / No, because I don't know.
- ☐ 興味がない / I have no interest in open access.
- ☐ その他 / Other

5. 京都大学は2015年4月28日に「京都大学オープンアクセス方針」を採択しました。ご存知ですか? / On April 28, 2015, Kyoto University adopted "Kyoto University Open Access Policy". Do you know that?

- ☐ 知っている / Yes ☐ 知らない / No
- ☐ 聞いたことがある / I have heard of it.

6. 京都大学のオープンアクセスが進むことで期待することがあれば教えてください。 / Please describe in the column below if you have an expectation to the policy.

7. 所属機関はオープンアクセス・ポリシー等を定めている・定める予定がありますか? / Have your university set a policy in place for open access?

- ☐ 定めている / We already have one.
- ☐ 定める予定がある / It will be
- ☐ 定めていない・予定がない / No
- ☐ ポリシーを定めていないが、類似のものがある / We won't, however, we do have a similar one.
(詳細に / Explain in details : _____)
- ☐ 知らない / Don't know.

8. オープンアクセスを積極的に推進していくべきだと思いますか? (複数選択可) / Do you think that articles and research should be made open access? (Select all that apply.)

- ☐ 強く賛成 / Strongly agree

- ☐ おおむね賛成 / *Agree a little*
- ☐ 教員・研究者次第 / *It depends on faculty members.*
- ☐ 図書館員などの職員次第 / *It depends on faculty staff (including librarians).*
- ☐ 大学経営者次第 / *It depends on university managers/directors.*
- ☐ おおむね反対 / *Disagree a little*
- ☐ 強く反対 / *Strongly disagree*
- ☐ 何も思わない / *N/A*

9. オープンアクセス・ポリシーを定めている機関またはオープンアクセスを義務化・推奨している機関に所属している方で、研究支援業務に従事されている方に質問です。教員や所属研究者へオープンアクセスを普及していくときに苦労していることや工夫していることがあれば教えてください。 / *Question for staff members engaged in research support at university which set the open access policy in place. Please describe in the column below what you have difficulty in and what you try when you become popular in open access.*

質問と回答はここまでです。ありがとうございました。

EAJRS2015 の期間中に会場にいる下記の者にこの回答用紙をお渡しいただくと（またはウェブフォームの回答送信画面のスクリーンショットをとって見せていただくと）、小さなプレゼントを差し上げます。

後日、今回の調査について追加質問したり、調査結果をお知らせしたりしても良い場合は、メールアドレスをご記入ください。

That's all. Thank you for your cooperation.

If you hand it in or provide a screenshot of the digital version to us (the following two librarians), we will give you thanks and a small gift!

If possible, please write down your email address. We are going to send the results of this survey.

Email : _____ @ _____

ご質問・不明な点がございましたら、下記のメールアドレスまでご連絡ください。 / *Please feel free to contact us, if you have any questions.*

調査実行者 / *Contact ;*

京都大学 附属図書館 情報サービス課 相互利用掛 / *ILL Section, Kyoto University Main Library*

原竹 留美 (HARATAKE RUMI) Email: haratake.rumi.2c@kyoto-u.ac.jp

京都大学 北部構内教務・図書課 共通図書掛 / *Acquisition Section, Kyoto University North Campus Library*

西川 真樹子 (NISHIKAWA MAKIKO) Email: nishikawa.makiko.2s@kyoto-u.ac.jp

日本資料へのアクセスに関する アンケート調査結果

EAJRS2015 in Leidenでのアンケート結果をもとに作成

京都大学附属図書館情報サービス課
相互利用掛 原竹留美
京都大学北部構内事務部教務・図書課
共通図書掛 西川真樹子

2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

1

A)一般項目

B)海外の図書館への依頼

C) 海外への貸出・複写提供

D)海外から利用する日本のデジタル資料

E)オープンアクセス

2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

2

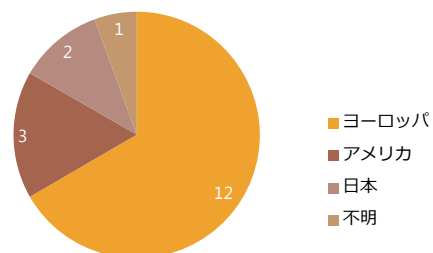
A. 一般項目

2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

3

A-2. 現在の居住国 (A-1は個人情報につき省略)

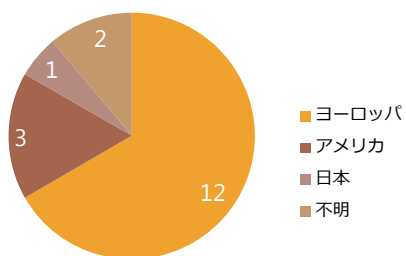


2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

4

A-3. 所属

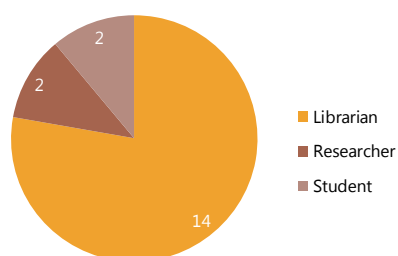


2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

5

A-4. 職業

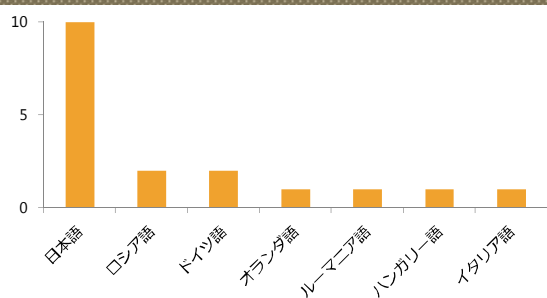


2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

6

A-5. 母国語

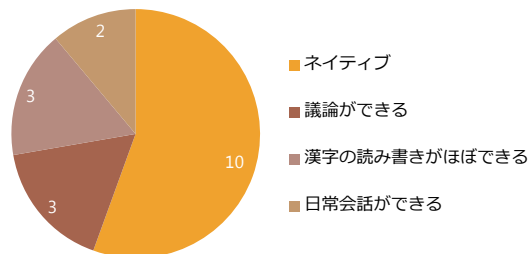


2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

7

A-6. 日本語習得レベル



2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

8

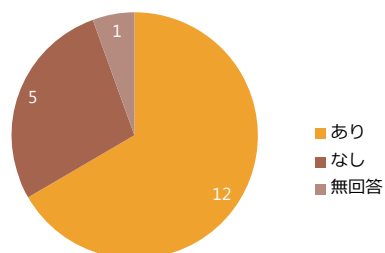
B. 海外の図書館への依頼について

2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

9

B-1. 海外の図書館へ依頼(借用・複写)することがありますか?

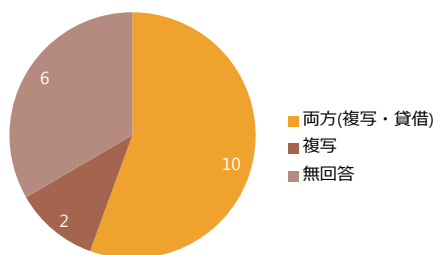


2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

10

B-2. 海外の図書館へ依頼するリクエストのタイプは?

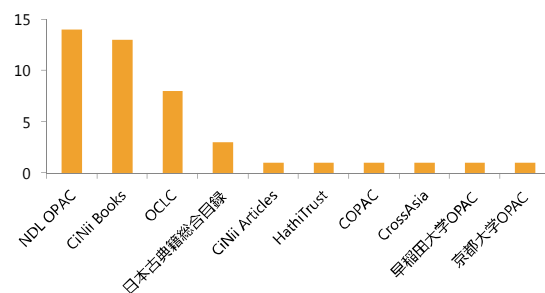


2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

11

B-3. 海外の図書館が所蔵する資料を探すとき、どのような検索ツールを使いますか? (複数回答可)

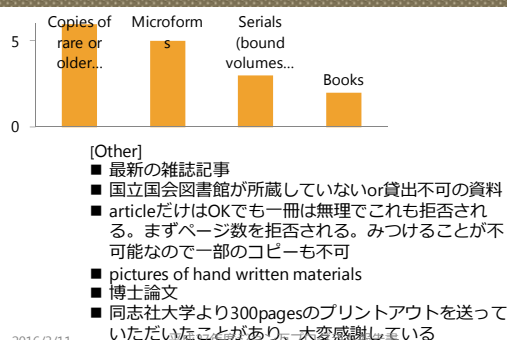


2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

12

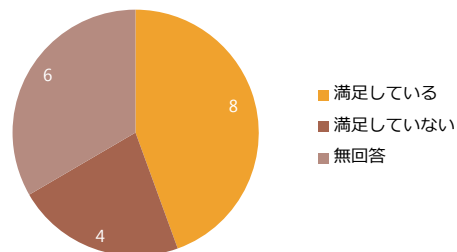
B-4. 海外の図書館から取り寄せるのが難しい資料は? (複数回答可)



2016/3/11

13

B-5. 海外、特に日本から資料を取り寄せることに満足していますか?



2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

14

B-6. あなたの図書館の海外ILLサービスについてお書きください (その他1)

- 北欧地区内でのILLは無料だが、その他はFLAヴァウチャーを使っている。それで間に合わないNDL。複写は請求書をまとめて年に2,3回クレジットカード支払い。ただし図書館のクレジットカードはないので、自分個人のカードで払い、後で払い戻してもらっている。手間がかかるのでIFLAヴァウチャーが使えるに越したことはない。[Norway / Librarian]
- NCCのILLページ(GIFのページ)を参考にrequestしてもらっています [USA / Librarian]
- If a journal is not available at the NDL, it is very difficult to get a copy of this journal article, because the NDL is our only possibility for Japanese material. [Germany / Librarian]
- The copyright restriction of 30pages makes some copies very difficult. Often researcher need more than 30 pages... [Germany / Librarian]

2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

15

B-6. あなたの図書館の海外ILLサービスについてお書きください (その他2)

- ILL担当者ではないのでわかりませんが、日本の図書の場合、手伝う場合があります。以前よりスピーディになったので、満足しています。 [Sweden / Librarian]
- German institutions do not have credit cards to copy for loans. A receipt is necessary. [Germany / Librarian]
- 雑誌はNDLさんから多くコピーを送ってもらっています。本は欧州にない場合、入手困難です。主にドイツとは交流があり、公式ではないが連絡網がある。(ドイツ国内+スイス・チューリッヒ) [Switzerland / Librarian]
- 英国人がひとりで全ての国への/からのILLを担当している(Japan Librarianは必要などきだけ介入するのみ)。IFLA/ヴァウチャーでの決済が望ましい。British Libraryのsystemを通してのILLもあり。日本からの場合、ヨーロッパの図書館に所蔵していない場合はまず第一に早稲田をチェック。早稲田にない場合は他の私立大図書館にあたる。国立大学は困難という理解。私立大が所蔵していない場合に国立大へ。 [UK / Librarian]

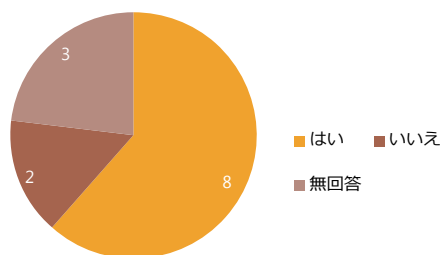
2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

16

C. 海外への貸出・複写提供について

C-1. 海外の図書館へ提供(貸出・複写)していますか?

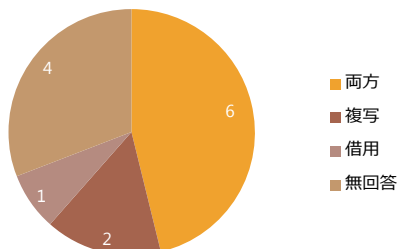


2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

18

C-2. 海外の図書館からのILLリクエストに応じているタイプは?

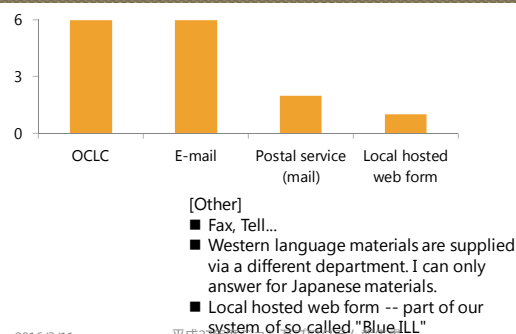


2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

19

C-3. 海外の図書館からの依頼は、どの方法で受け付けていますか? (複数回答可)

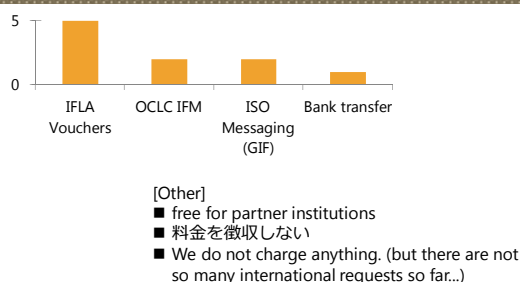


2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

20

C-4. 海外の図書館からの支払いは、どの方法で受け付けていますか? (複数回答可)



2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

21

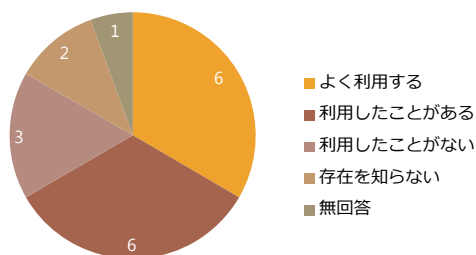
D. 海外から利用する日本のデジタル資料について

2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

22

D-1. ご自身の所属機関のデジタル・アーカイブ(画像・音声・動画など)を利用したことがありますか?



2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

23

D-2. 普段利用するデジタル・アーカイブのWebサイト名を教えてください

- 大学・機関のデジタルアーカイブ
 - Leiden University Digital Special Collections
 - Minuskel (Oslo University Digital library)
 - SchlarSpace (University of Hawaii at Manoa Hamilton Library IR)
 - eVols (University of Hawaii Library IR)
 - University of Washington Libraries Special Collections
 - 国立国会図書館デジタルコレクション
 - 国立国会図書館近代デジタルライブラリー
 - 国立国会図書館サーチ
 - 国立公文書館アジア歴史資料センター
 - 国文学研究資料館電子資料館
- 長崎大学電子化コレクション
- 琉球大学附属図書館琉球・沖縄関係デジタルギャラリー
- 早稲田大学古典籍総合データベース
- 早稲田大学演劇博物館所蔵浮世絵閲覧システム
- 立命館アートリサーチセンター
- 国際日本文化研究センター
- 京都大学電子図書館貴重資料画像
- 二次情報データベースなどその他
 - HathiTrust
 - JSTOR
 - ProQuest
 - 青空文庫

2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

24

D-3. なぜ2のサイトをよく利用するのですか? (その1)

- コンテンツの分野・専門性
 - 普段見ることの出来ない資料が提供されているので [Nederland / Librarian]
 - (早稲田)英語も表示される。(日文科)他にないような資料が多い。(NDL)総合的に調べられる [UK / Librarian]
 - Nagasaki University has photos on my research topic. [Germany / Librarian]
 - 学生からSOASにないけれど使いたいというリクエストを受けると、まず国会サイトをチェック。助けられるケースが多い。 [UK / Librarian]
 - 探している資料がよくみつかるので、やはりいづれ統合ケンサクができればのぞましい [Switzerland / Librarian]
 - Due to the open databases necessary for my professional work [Russia / Researcher]
 - Referenceのために [US / Librarian]
 - 琉球・沖縄関係の資料をさがす場合の基本的DBとなるため [Japan / Librarian]

2016/3/11 平成27年度ジョン万プログラム報告書

25

D-3. なぜ2のサイトをよく利用するのですか? (その2)

- データの利用しやすさ・オープン度
 - オープンデータが提供されているから [Romania / Librarian]
 - 特定のものはない。国会図書館の近代デジタルライブラリーは、CiNiiの検索やGoogleで導かれることもある。青空文庫は文学作品で使える場合は便利なので [Oslo / Librarian]
 - NDL provides many copyright free materials and is easy to use. [Germany / Librarian]
 - Because it is easily accessible and offers a lot of materials. [Nederland / Librarian]
 - オープンデータが提供されているから。 [UK / Librarian]
 - relevant contacts : full texts, オープンデータ [US / Librarian]
 - オープンソース、Not available as prints, オリジナルがない(所蔵)、ILL不可 [US / Librarian]

2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

26

D-4. データの二次利用について、困ったことがありますか? それはどのようなことでしたか? どのような解決法を希望しますか?

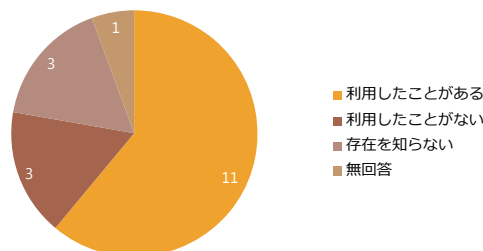
- 図書館の展示に利用する場合、展示のウェブサイトを使うには、著作権がクリアしている必要がある。 [Norway / Librarian]
- レイアウトがあまり良くなかったり、プリントアウトすると読みにくいレイアウトになる場合がある。 [Norway / Librarian]
- 有名大学の名をかたって画像の元データを送るよう依頼してきたが、疑わしかったので、その大学の公用箋で正式に依頼してくるように返事した。 [UK / Librarian]
- NDLのthesisなどはダウンロードできるページ数にlimitがある事 [US / Librarian]
- CCBY表示はよいと思う。あとは言葉でDBサーチインターフェイスに明記するなど [Switzerland / Librarian]

2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

27

D-5. 「京都大学電子図書館貴重資料画像」サイトを利用したことがありますか?



2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

28

D-6. このサイトについてどう思われますか? 良い点や改善すべきだと思う点を教えてください

- 非常に使いやすいです。 [Nederland / Librarian]
- 使ったのはかなり前で、古典籍の確認につかった。良く覚えていないが、CiNii書誌からリンクされているだろうか? もしそうでないなら、絶対にCiNiiからリンクするべき。 [Norway / Librarian]

2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

29

D-7. 日本資料を検索するときに、困っている点やコツがあれば教えてください

- 日本語の問題
 - 館内に他に日本語が分かる人がいなく、ILL担当でないが、私が注文するしかない。国内他大学の日本研究者からも助けを求められるが、更に合法的なサポートが困難。注文サイトが英文になっていれば、日本語の分かる利用者が、日本語のわからない図書館員と協力して、注文が出来ると思う。 [Norway / Librarian]
 - Many use PCs can not input Japanese script, search. There is difficult. [Germany / Librarian]
- デジタルデータの問題
 - There is a lot of digitized material available, but there is no central access point yet. NDL Search is very helpful tool. "Research Navi" of NDL is also very helpful. [German / Librarian]
 - I cannot use them online - I can get information about but cannot read them [Russia / Researcher]

2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

30

D-7. 日本資料を検索するときに、困っている点やコツがあれば教えてください

- データの点在性の問題
 - 資料が散らばっていて探しにくい。NDLのリファ協やリファレンスページは広いガイドになっている。[US / Librarian]
 - やはり統合ケンサクがないと大変です。あとは件名などが日本語件名で統一されていると便利かもしれない。[Switzerland / Librarian]
 - 点在しているので、あちこちのサイトを検索する必要がある。グーグルで偶然に見つける。多分、存在するのに見つからない貴重な画像資料は多くあると思う。埋もれている資料が多い。[US / Librarian]

2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

31

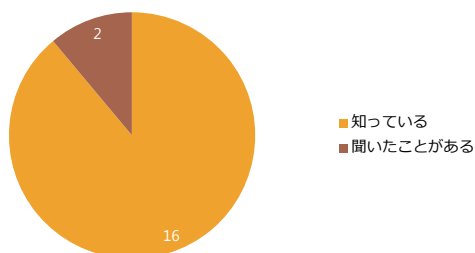
E. オープンアクセスについて

2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

32

E-1. オープンアクセスとは何かご存知ですか?

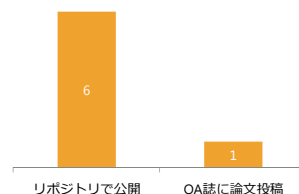


2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

33

E-2. 研究者の方に質問です。今まで何らかの手段でご自身の研究成果・論文をオープンアクセスにすることがありますか? (複数回答可)

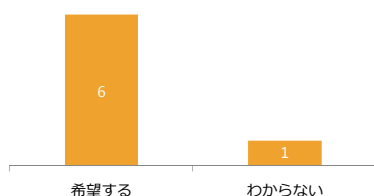


2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

34

E-3. 研究者の方に質問です。今後、ご自身の研究成果・論文をオープンアクセスにしようと思いませんか?

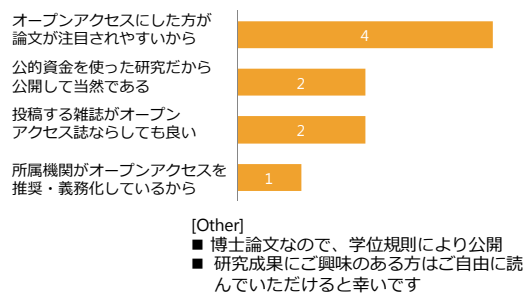


2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

35

E-4. 3の理由は? (複数回答可)

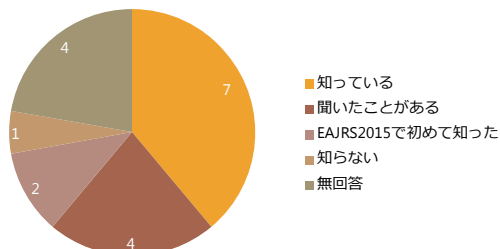


2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

36

E-5. 京都大学は2015年4月28日に「京都大学オープンアクセス方針」を採択しました。ご存知ですか？



2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

37

E-6. 京都大学のオープンアクセスが進むことで期待することがあれば教えてください
(その1・コンテンツ拡充についての回答)

- オランダ在住だと簡単には手に入らない資料を読むことができるので。 [Nederland / Librarian]
- 研究者のPer-review記事や博士論文、その他研究者による学術記事だけでなく、国会図書館の雑誌でヒットする既存雑誌の記事も入ると良い。 [Norway / Librarian]
- If it gives the free access to the researchers from abroad It will be very useful. [Russia / Researcher]
- I heard that at Kyoto Univ. Library there are some manuscripts collections (i.e. Matudaira Tadanobu bunko). I wonder if it will be in open access for researchers abroad. [Russia / Researcher]
- 紀要のみならず学術論文や統計などものを頂きたいです。大学の歴史、統計(大学史)等のfull textをお願いします(もしまだでしたら)。 [USA / Librarian]

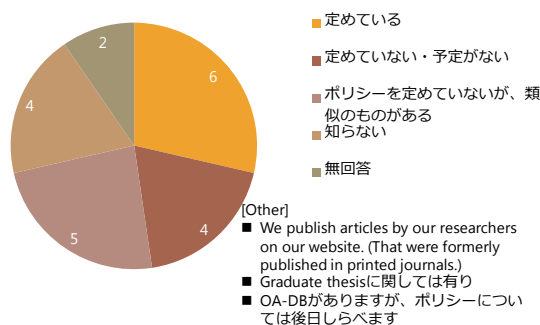
平成27年度ジョン万プログラム報告書

38

E-6. 京都大学のオープンアクセスが進むことで期待することがあれば教えてください
(その2・オープンアクセスの広がりについての回答)

- 他の大学が追随すること [UK / Librarian]
- 他の(査読付の)学術雑誌がOAに積極的になるのではないかと期待しています [Japan / Librarian]
- 京大の研究成果にaccessし易くなる→同じ研究が重ならず済む(研究者の交流) [USA / Librarian]
- 他大学のモデルになる機関でopenaccessが進んだ事で他大学でもOAが始まる事を期待できる [USA / Librarian]
- I think it is very helpful that the Japanese government went stress the need for a open access. The more Universities adopt an open access policy like Kyoto University the better for the academic world. [Germany / Librarian]
- "way to go!" 日本の研究の世界標準化のためには必須 [USA / Librarian]
- Well research material should be easily resealable thorough good preparation of unabed date provided with good metadata provided by KU library. [Germany / Librarian]
- 査読のあるOAジャーナルは今後増加してくれるとありがたい。京大さんがその可能性を見せてくれるのは他大学・出版社にとって刺激になる。 [Switzerland / Librarian]

E-7. 所属機関はオープンアクセス・ポリシー等を定めている・定める予定がありますか？

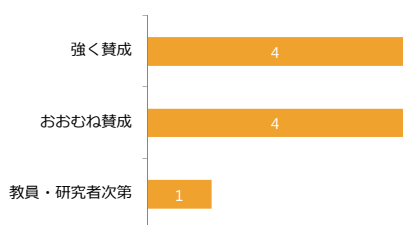


2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

40

E-8. オープンアクセスを積極的に推進していくべきだと思いますか？(複数回答可)



2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

41

E-9. 教員や所属研究者へオープンアクセスを普及していくときに苦労していることや工夫していることがあれば教えてください

- 既存のステータスある雑誌にしか出す気のない先生がいる。 [Norway / Librarian]
- 毎年、北米のopen access weekに合わせて、event, kctue 等を教員open access代表者と供に行っている。何かPRやpromoteするときは、必ず教員と一緒にやらなければインパクトがない。大学全体のiventとしてやる必要がある。 [Japan / Librarian]
- Submission方法がsimpleでない事。研究者へのpromotion [USA / Librarian]
- 私は厳密な意味での「研究者」ではないですが、拙稿をいくつかrepositoryにオープンアクセスでいれた後毎月数本は閲覧・ダウンロードされていておどろく。IRにdownloadされた回数・タイトルを毎月知らせてくれる機能が付いており、お知らせがemailでしるようになっていいる。オープンアクセスにはこのお知らせ機能が必要だと思ひます。 [USA / Librarian]
- スイス・ドイツの場合は研究者が積極的に申告しているようだ。研究所が研究者のOA資料に尋ねてそれをOA-DBに入力している。 [Switzerland / Librarian]

2016/3/11

平成27年度ジョン万プログラム報告書

42

日本資料の海外への提供の 新たな可能性

New Possibility of Global ILL Document Delivery Service of Japanese Resources

原竹留美 HARATAKE RUMI
京都大学附属図書館 Kyoto University Library

GIF(Global ILL Framework) Project

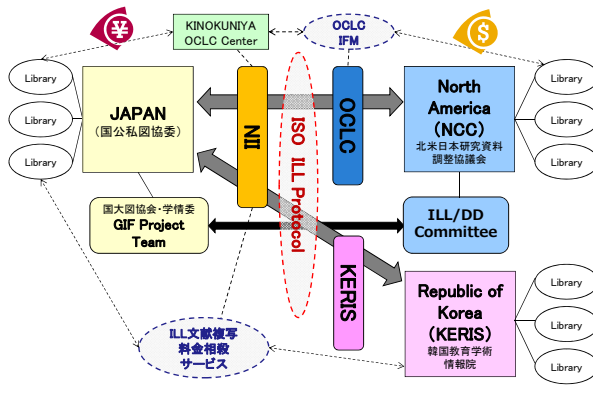
International ILL program established
between...

- Japanese academic libraries and OCLC ILL libraries (North American, AUS, and NZ academic libraries)
- Japanese academic libraries and Republic of Korean academic libraries

2001~

2007~
COPY only

GIF(Global ILL Framework) Project



Number of GIF Project Participants

Between Japan and North America, AUS, NZ

- Japan: 168 Libraries
(Loan Service: 94)
- North America: 110 Libraries
(Loan Service: 83)

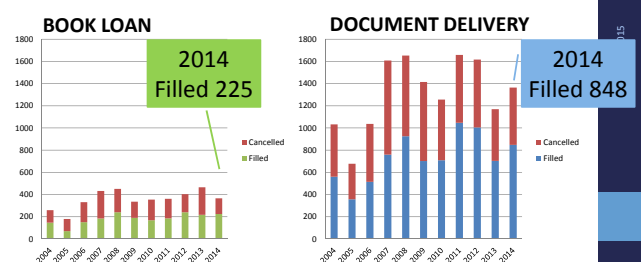


3 Elements of GIF Project

- ISO Protocol System
- NACSIS-ILL System
- Fee Settlement Method
KINOKUNIYA OCLC Center
OCLC-IFM(ILL Fee Management)

Number of ILL Transactions between 2004-2014(Japan/OCLC)

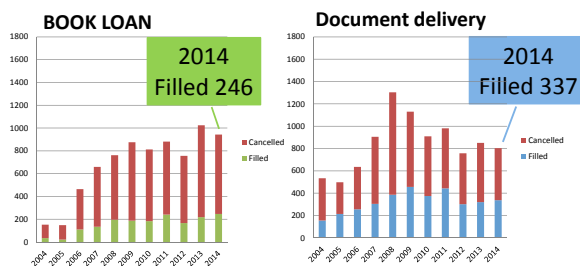
日本依頼/OCLC受付
ILL Requests to North America from Japan



Number of ILL Transactions between 2004–2014(Japan/OCLC)

OCLC依頼/日本受付

ILL Requests to Japan from North America



2013 Survey about international ILL GIF Participants in Japan

Merits of GIF (all that apply)

- NACSIS-ILL system—34%
- Payment method—29%
- Support in Japanese—27%
- Quick response—6%

2013 Survey about international ILL GIF Participants in Japan

Points to be improved about GIF (all that apply)

Over 70% of answers →

Something caused by **difference**
between NACSIS-ILL system and
OCLC

Next New Global ILL Framework

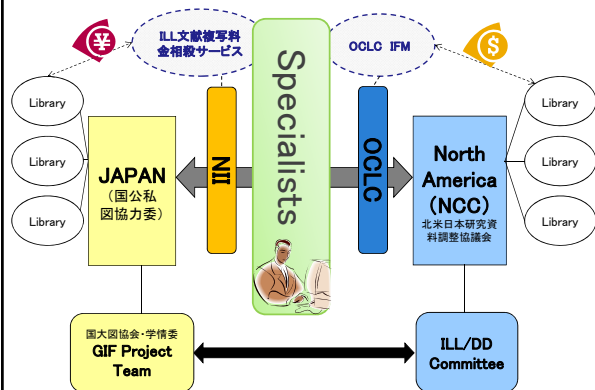
Next GIF Model' s KEY POINT!

ISO ILL Protocol

➔ **Specialist**

NOW, GIF-JAPAN examine
this next new GIF

Next New Global ILL Framework



Next New Global ILL Framework

Specialists

- Technical knowledge
- Skill of bibliography
- Library local information



- The ILL/DD contact point in Japan
- GIF will be more global ILL framework

THANK YOU !

- GIF Project- JAPAN
<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/gif/>
- NCC-
Requesting Japanese Material
through Interlibrary Loan
<http://guides.nccjapan.org/ildd>

EAJRS2015

Please tell your VOICE !

NOW, we are going to carry out
a questionnaire survey.

*“Access to Japanese Materials
Questionnaire”*

<http://goo.gl/forms/pC07RVjgoM>

Period: 16th–30th Sep. 2015

EAJRS2015



京都大学図書館の"オープン戦略"


-尊攘堂資料からオープンアクセス方針まで-

The Open Strategy of Kyoto University Libraries

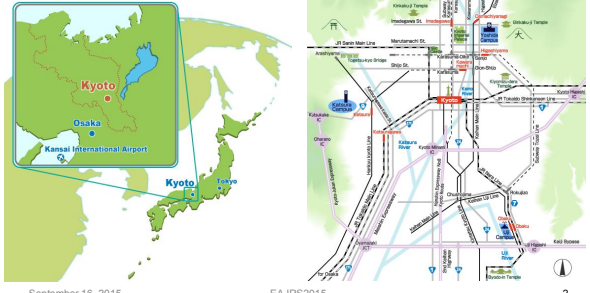
-from Meiji Restoration Images to Open Access Policy-

西川 真樹子 (Makiko NISHIKAWA)
Kyoto University Librarian


September 16, 2015 EAJRS2015 1



Kyoto and KU 3 main campuses



September 16, 2015 EAJRS2015 2




KU - The 2nd University in Japan

- The second oldest national universities in Japan
- 10 faculties, 18 graduate schools, 14 research institutes and 17 centers
- 23,000 students (1,400 international students), 2,800 faculty and 2,600 staff
As of May 2015
- 9 Nobel Prize winner and 22 Nobel Prize
- Ranking: 59 (by THE 2014-15), 36 (by QS 2014-15), 26 (by ARWU 2015)... **All 2nd in Japan**

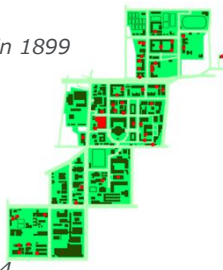
For details...<http://www.kyoto-u.ac.jp/explore/data/>

September 16, 2015 EAJRS2015 3



Kyoto University Library

- About 50 Libraries
 - Main Library established in 1899
- 6,800,000 Books
- 120,000 Journals
- 35,500 E-Journals
- 130,000 articles in KURENAI (KU Repository) as of 2014



Yoshida Campus

September 16, 2015 EAJRS2015 4



Leiden and Kyoto University



Copyright 2006, Kyoto University Library




Copyright 2006, Kyoto University Library

"Japanese flora" (Siebold ; Zuccarini) 1835-1870
[Possession of Department of Botany, Faculty of Science, Kyoto University]

"Japanese fauna" (Siebold) 1833-1850 [Possession of Department of Zoology, Faculty of Science, Kyoto University]

September 16, 2015 EAJRS2015 5




Kyoto University Library's the three "Open"

- 1st • Rare materials (1994-)
- 2nd • Research Information Repository (2006-)
- 3rd • Open Access Policy (2015-)

September 16, 2015 EAJRS2015 6

Kyoto University Digital Library

- **"Digital Library" (1994) by Prof. Nagao**
- **Rare Materials Images**
 - Library Exhibition "Restoration Sho'in Yoshida" (1994)
- KU library website (1996-)
- KU Digital Library System (1998-)



September 16, 2015 EAJRS2015 7

Kyoto University Digital Library



吉田松陰とその同志
http://hdl.handle.net/2433/148392

吉田松陰画像附松陰自賛
http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/ishin/shouin/doc/kaisetsu_ji/no02.html

September 16, 2015 EAJRS2015 8

Kyoto University Digital Library
Rare Materials Exhibition
京都大学電子図書館 貴重資料画像

MOST POPULAR MATERIALS



September 16, 2015 EAJRS2015 9


Kyoto University Library's the three "Open"

- 1st • Rare materials (1994-)
- 2nd • Research Information Repository (2006-)
- 3rd • Open Access Policy (2015-)

September 16, 2015 EAJRS2015 10

KURENAI -Kyoto University Research Information Repository-

- KU Research Information Repository (2006-)
- e-BOOK
 - Cooperation with **Kyoto University Press** (2008.2-)
- Articles of Professor Shinya Yamanaka Awarded the **Nobel Prize** (2012.10)



September 16, 2015 EAJRS2015 11

京都大学図書館機構
The Kyoto University Library Network

LIBRARY NETWORK: Available on KURENAI: Articles of Professor Shinya Yamanaka Awarded the Nobel Prize



Professor Shinya Yamanaka, Director of the Center for iPS Cell Research and Application has received the Nobel Prize in Physiology or Medicine on 8 October, 2012.

- CIRA Director Yamanaka won the Nobel Prize (October 8, 2012)
- CIRA Director Professor Shinya Yamanaka and his Wife Appear at a Press Conference (October 9, 2012)
- The 2012 Nobel Prize in Physiology or Medicine - Press Release (The Official Web Site of the Nobel Prize)

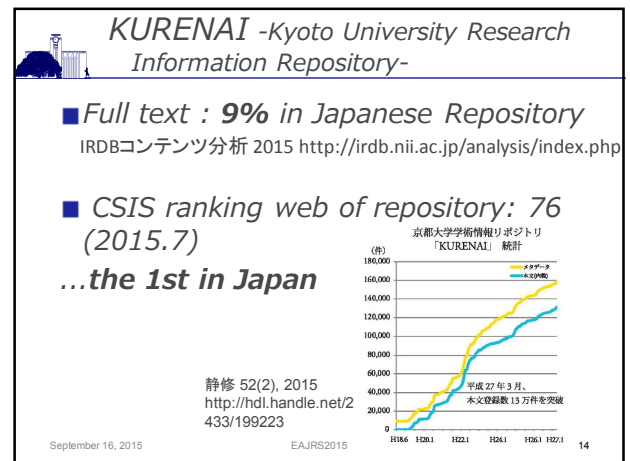
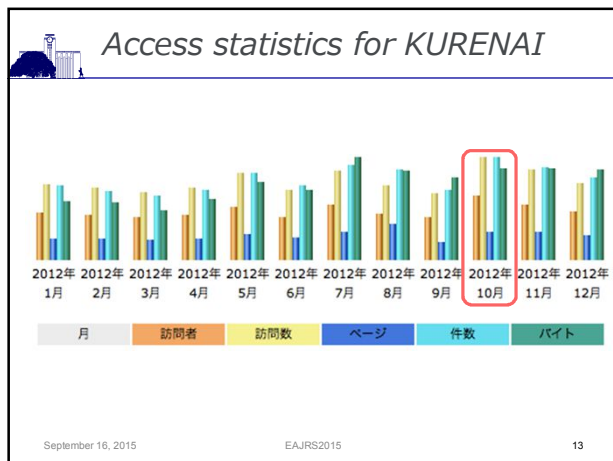
Key publication

Induction of pluripotent stem cells from mouse embryonic and adult fibroblast cultures by defined factors.
Takahashi, K., Yamanaka, S. (2006)
Cell 126:663-676
DOI: 10.1016/j.cell.2006.07.024
On Kyoto University Research Information Repository: <http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/edoc/2433/15977>
On Cell Press Website: <http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0092867406009767>
"2012 Nobel Laureates" (Cell Press) <http://www.cell.com/cellpress/nobelprize2012>

Main bibliography of Professor Shinya Yamanaka

◆ Available on Kyoto University Research Information Repository (KURENAI)

Induction of Pluripotent Stem Cells from Adult Human Fibroblasts by Defined Factors
Takahashi, Kazutoshi, Tanabe, Koji, Ohnuki, Mani, Narita, Megumi, Ichisaka, Tomoko, Tomoda, Kichiro, Yamanaka, Shinya (2007-11-30)
Cell, 131(5):861-872
Publisher Version/Cell Press <http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0092867407014737>



KURENAI -Kyoto University Research Information Repository-

- How to collect articles by KU members
 - Departmental bulletin papers (200 titles)
 - Inquiring DB & **Firing off e-mail** by librarians
- Publishing for **KU engineering doctoral thesis** on Repository (2007.8)
- Open Access Publishing for **Electronic Theses and Dissertations** by MEXT (2013.4)

September 16, 2015 EAJRS2015 15

Kyoto University Library's the three "Open"

- 1st • Rare materials (1994-)
- 2nd • Research Information Repository (2006-)
- 3rd • Open Access Policy (2015-)

September 16, 2015 EAJRS2015 16

What's Open Access?

- More than for Free
 - ✓ Reusable
 - ✓ Accountability for use of public funds
- How to Open Access
 - Gold
 - ✓ APC
 - Green
 - ✓ Self-archiving
 - ✓ Open Access Policy

September 16, 2015 EAJRS2015 17

Kyoto University Open Access Policy

approved
by Kyoto University Library Network Board on February 20, 2015;
by Deans and Directors Meeting on April 14, 2015;
by Education and Research Council on April 28, 2015;
by Board of Executive Directors on April 28, 2015

(Objective)
1. To assure open access to published products of Kyoto University faculty research to further research and public accountability.

(Access Rights)
2. Kyoto University Research Information Repository (hereafter "Repository") shall provide open public access to Kyoto University faculty research published in journal

KU adopted OAP on 28 Apr. 2015.

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/uploads/oapolicy.pdf>

conflicting with it.

September 16, 2015 EAJRS2015 18

September 16, 2015

EAJRS 2015

What's KU Open Access?

- *Require deposit of relevant work **in the institutional repository***
- *The deposited version : the **final version of the author's peer-reviewed manuscript***
- *Basically, **without exception***

September 16, 2015

EAJRS2015

20

What's KU Open Access?

- *Commencement of new OAP operation system (2016.1?-)*
- *OAP automatically collects academic articles of faculty members?*
 - **No!**
 - **Need advocacy!!**

***OAP is not a killer tool/magic
but a Slogan!!!***

September 16, 2015

EAJRS2015

21

Open Access, Open Date, Open Science

- Discovery
- Data mining
- Accelerated research

Research

- Collection
- Cooperation
- Publishing

Library

- Accountability
- Outreach
- Preventing Academic Misconduct

University

- Application of Research Results
- Communication

Society

September 16, 2015

EAJRS2015

22

Next "Open" in Kyoto University

Archive

京都大学総合博物館

京都大学デジタル図書館

京都大学総合博物館

Museum

京都大学図書館

Library

September 16, 2015

EAJRS2015

23



Thank you!

■ *We are going to carry out a questionnaire survey on EAJRS2015.*

日本資料へのアクセスに関するアンケート調査
Access to Japanese Materials
Questionnaire

Period : 16th – 30th Sep. 2015

<http://goo.gl/forms/pC07RVjgoM>

Thank you for your cooperation.

September 16, 2015

EAJRS2015

24